

DACS-1500/1700/2500 Linuxでの動作情報

デジタル入出力基板 DACS-1500/1700/2500 各シリーズは、下記の Linux にて、OSインストール時に自動的に仮想COM版相当のドライバが組み込まれます。なにも特別な処理をする必要はありません。

1. 動作確認済みのLinux

```
CentOS 5.2  
RedHat Linux 9.0  
Suse Linux 9.1 Personal  
Fedora Core 2
```

2. インストール後の動作確認方法

ターミナルを開いて入出力ダイレクトにより、簡単に動作確認を行うことができます。

- (1) root 権限にてログオンしてください。
- (2) グラフィカルモードにて起動してください。
- (3) システムツール → ターミナル にてターミナルを起動してください。
コマンドラインに下記内容をキー入力し、
入カデバイスを DACS-1500 にリダイレクトします。

```
cat < /dev/usb/ttyUSB0
```

CentOSの場合は

```
cat < /dev/ttyUSB0
```

- (4) システムツール → ターミナル にて、もう一つ別のターミナルを起動してください。
コマンドラインに下記内容をキー入力し、
出カデバイスを DACS-1500 にリダイレクトします。

```
cat > /dev/usb/ttyUSB0
```

CentOSの場合は

```
cat > /dev/ttyUSB0
```

出カデバイスをリダイレクトしたこのターミナルにて、たとえば、
W0000000 と入力し、DACS-1500/1700/2500 に
データを送信すると、
先の(3)項にて開いたターミナルに
R0000000 というような、受信データが表示されます。

以上

ダックス技研株式会社

資料No. DACS15LINUX17604A